

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

A. コースワークの充実・強化

②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

《理工農系》

●東京農工大学生物システム応用科学府生物システム応用科学専攻

「ラボ・ボーダレス大学院教育の構築と展開」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

すべての研究室で少人数グループに分かれて最先端研究を体験する「基礎技術演習Ⅱ」で、夏休みに、希望に基づいて、学生の研究室への割り振りの決定を行ったが、実施する10月、11月には就職活動を始める学生が現われ、予定通りの研究室での実施が困難になるケースがあった。また、10月入学者の研究室への割り振りができなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

それぞれの研究室が受け入れることのできる学生数、日時に研究室の事情によって制限があったため、一度決定した学生数、日時を変更することが困難であった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

それぞれの実施内容は様々であり、受け入れることのできる学生数、日時に余裕のある研究室に学生の変更、追加をお願いした。その場合には、学生の意向と異なるケースもあった。時期的にはこれ以上の対応は難しく、学生の意向とは異なっても、異分野の最先端研究を経験することは意義のあることと判断している。